

国立情報学研究所
学術情報リテラシー教育担当者研修

2011年11月30日(水)

効果的なグループ討議法

安 永 悟
心理学研究科・文学部



久留米大學

KURUME UNIVERSITY



目的：めあてと願い

❖ めあて

- ❖ 協同学習の基本的な理論と技法を理解し
グループの効果的な活用ができる

❖ 願い

- ❖ 初学者：協同に基づくグループ=ワークに関心をもつ
- ❖ 実践者：グループ=ワークの質を高める
ヒントをえる

見通し：研修内容

- ❖ 学び合える環境づくり
 - ❖ 仲間づくり
 - ❖ 話し合いの基本スキル
- ❖ 協同学習の基本的な考え方
 - ❖ 協同学習の基本要素
 - ❖ 協同による意思決定
- ❖ グループ討議のテーマ決め
 - ❖ 問題意識の明確化

協同学習の
理論と技法
を援用

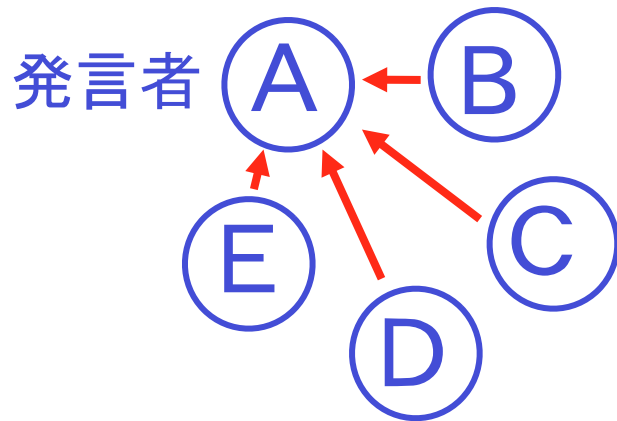
環境づくり：グループの編成法

- 学習における小グループの活用 = 協同学習
- 異質グループ：多様性の重視
 - 方法：性別、年齢、学科、職種、興味関心・・・
 - 機能：多様な「個」の受容（異質性の許容）
 - 視野の拡大・理解の深化
 - 他者理解 「いじめ」阻止
特別支援教育の可能性

話し合いスキルの基本

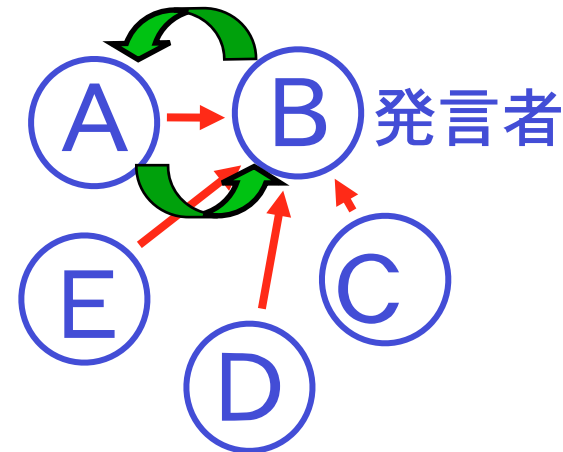
傾聴

発言者に高揚感、
効力感をもたらす
理解の促進と深化



ミラーリング

B：理解の確認、理解に基づく発言
発言者 A に対する尊敬
A：発言内容のモニタリング



基本的信頼感の醸成

話し合いの基本技法 1/2

❖ 技法 「シンク=ペア=シェア」 Think Pair Share

❖ 手順

① クラス全体に質問を与える

課題明示

② 一人で考える

個人思考

③ ペアで順番に考えを述べる
(ほぼ同じ時間を使って)

集団思考

④ クラス全体で話し合う



話し合いの基本技法 2/2

❖ 技法「ラウンド=ロビン」 Round Robin

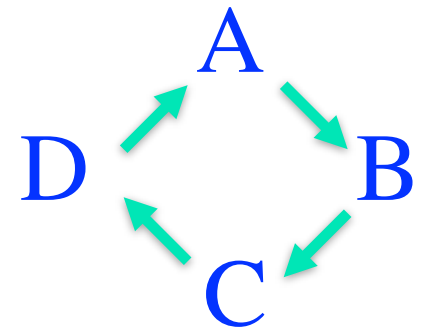
❖ 手順

- ① クラス全体に質問を与える
- ② 一人で考える
- ③ グループ内で順番に考えを述べる
(ほぼ同じ時間を使って)
- ④ クラス全体で話し合う

課題明示

個人思考

集団思考



「話し合い」の基本原則 1/2

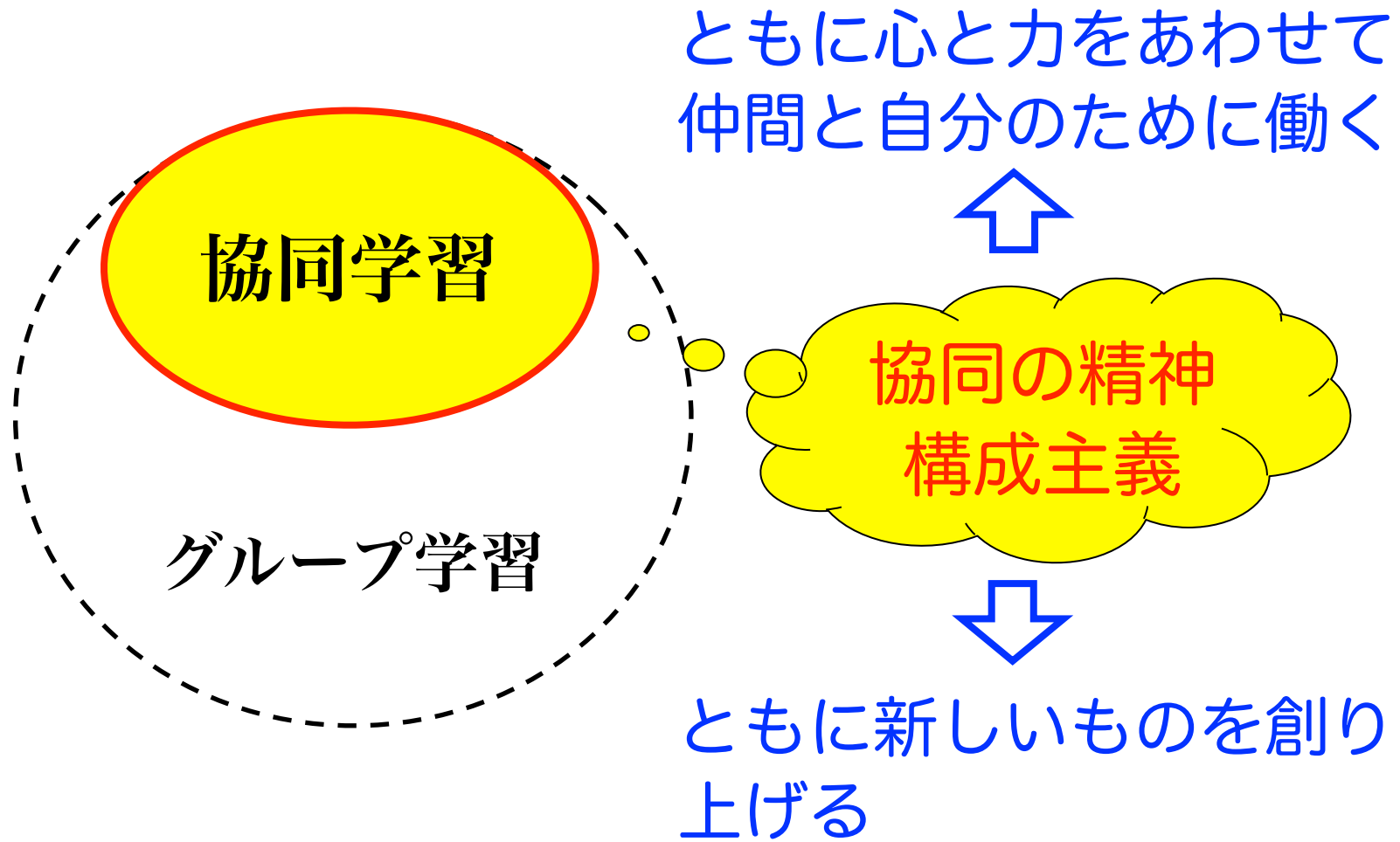
- ❖ 参加者はすべて対等である
- ❖ 他者に対する先入観を捨てる
- ❖ 相手の語る言葉そのものを問題にする
- ❖ 自分の実感や体験に基づいて対話する
- ❖ 他者の質問や疑問を禁じてはならない

出典：中島義道 1997 <対話>のない社会 PHP研究所

「話し合い」の基本原則 2/2

- ❖ 他者との対立やズレを積極的に見つけ展開する
- ❖ 自他の意見が同じか違うかという、二分法を避ける
- ❖ 社会通念や常識にとらわれず常に新しい了解へと向かう
- ❖ 自他の意見が変容する可能性に対して常に開かれている

理論：協同学習の考え方



協同学習の基本要素

❖ Kaganの定義

- ① 相互依存 : 肯定的相互依存の成立
- ② 個人の責任 : 個人の責任が明確
- ③ 平等性 : 参加の平等が確保
- ④ 同時性 : 同時進行の相互交流
(目に見える相互活動)

注意：上記の4要素を満たすときにのみ
協同学習と呼ぶ

協同による意思決定

- 協同=互恵
 - 自分のため、相手のため、みんなのためを考える
- 納得できるまで話し合う
 - 互いに主張し合い、耳をかたむけ、受容し合い、納得して結論に至る
 - 安易な妥協、取引、多数決はしない
- 少数意見を尊重する
 - 異なる意見を排除しない

プレゼン準備のポイント

- グループ討議の目的
 - 協同による効果的なグループの実践
- プレゼンの条件
 - 準備 長時間、発表 6 分、質疑5分
 - プレゼンの主張は一つ、話題は二・三
- テーマの決定
 - 参加者全員に共通する問題を探す
 - 共通する問題の根源を問う
 - テーマを絞り込む

テーマ決め

- 課題： グループ討議のテーマを決める
 - ① 個人 5分
 - キーワードを付箋に書く（1枚に一つ）
 - ② 集団 20分 グループ ラウンド=ロビン
 - キーワードを述べる
 - ブレーンストーミング：量→質
 - 共通したキーワードを探す
 - KJ法：付箋の島をつくり、名前をつける
 - テーマを絞る

関連図書 1/3

(1) 活動性を高める授業づくり：協同学習のすすめ

安永（著）医学書院，近刊

(2) 活動性の高い授業づくり（1 - 12）

安永（著）看護教育 2010/4 - 2011/3，医学書院

(3) 対話中心の授業づくり

安永（著）小田・杉原（編著）学生主体型授業の冒険
ナカニシヤ出版 2010

(4) 学習の輪：学び合いの協同教育入門

ジョンソンら（著）石田・梅原（訳）二瓶社 2010（改訂版）

関連図書 2/3

(5) 協同学習の技法：大学教育の手引き

バークレイら（著）安永（監訳）ナカニシヤ出版 2009

(6) 実践・LTD話し合い学習法

安永（著）ナカニシヤ出版 2006

(7) 個に応じた学習集団の編成

アイルソン・ハラム著 杉江ら訳 ナカニシヤ出版 2006

(8) 先生のためのアイデアブック

ジェイコブスら（著） 関田（監訳）

日本協同教育学会（ナカニシヤ出版） 2005

関連図書 3/3

(9) 大学授業を活性化する方法

杉江ら（著）玉川大学出版部 2004

(10) 学びの情熱を呼び覚ますプロジェクト・ベース学習

ニューエル（著）上杉・市川（監訳）学事出版 2004

(11) 学生参加型の大学授業：協同学習への実践ガイド

ジョンソンら（著） 関田（監訳）玉川大学出版部 2001

(12) 「協同」による総合学習の設計

シャランら（著） 石田ら（訳）北大路書房 2001

協同学習のすすめ

- 日本協同教育学会 JASCE

- Japan Association for the Study of Cooperation in Education



- 互恵的な信頼関係を基盤とした協同に基づく教育・学習環境を創造・普及することを目的

- 入会申込：学会事務局へ

- ❖ ホームページ：<http://jasce.jp/index.html>